

イベント

メディアプロフェッショナル論講座公開シンポジウム 「近未来のメディア・サービス」報告



2005年3月14日・月（13：00～15：15）、名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホールにおいて「近未来のメディア・サービス ～NeedsとSeedsのはざまに?!～」と題する国際言語文化研究科主催のメディアプロフェッショナル論講座公開シンポジウムが開催された。聴衆は100名を超え、報道陣も多数、立ち見も出る盛況さだった。

近藤健二国際言語文化研究科長による主催者挨拶の後、先ず大島宏彦氏（中日新聞社最高顧問）が息の長い活字メディア文化の存在意義を説いた上で、人間の判断能力を超える膨大な量の情報が高速度

で流通する高度情報化時代にどう対処すべきか、と問題提起。続いて伊藤卓志氏（NTT西日本取締役・名古屋支店長）は、通信と放送の融合、双方向化、消費者がほしい情報を選ぶ時代になったと情報通信サービスの動向を解説し、川上淳氏（NHK総合企画室特別主幹・前名古屋放送局長）は、デジタル化とインターネットが個人の自由な発信を可能にした、情報量の膨大さにも関わらず出所をたどってみると見かけほど情報が多様ではないことが分かる、むしろ情報の質や発信者の責任の問題が重要と指摘。安井義博氏（ブラザー工業株式会社代表取締役会長）は、

着メロ、通信カラオケ等を例にあげマルチメディアコンテンツによるビジネスモデル展開の動向を紹介した。コーディネーターの山根一真氏（ノンフィクション作家、愛・地球博愛知県プロデューサー）は、終始議論を刺激的にリードしつつ、自分はいつも万年筆を持ち歩いていることや、意見・情報の公表には必ずメールアドレスを付けていること等、背景を欠いた匿名の情報による多対多・情報社会の不確実さ・不安定さを緩和しようとしていることに触れ、本来コミュニケーションとは何であるかを教育の場で取り上げるべきではないか、もっと社会・文化論としてのメディア研究を企業と大学は協力し積極的に進めてほしいとしめくくった。（進行係：高木香与呼・メ講座M1）

メディアプロフェッショナル論講座シ

ンポジウムは、これが第2回目。前回は同講座開設記念シンポジウムとして2003年7月11日、文系総合館の同じ会場で開催された。この時の概要は、基調講演「**変化する国際情勢とメディアへの期待**」ジェラルド・カーティス（コロンビア大学教授・中日新聞社客員）、パネルディスカッション「**これからのメディアを担う人**」パネリスト：田島暁（中日新聞社論説主幹、名古屋大学客員教授）、津田正夫（立命館大学教授、NHK元プロデューサー）、金田新（トヨタ自動車常務役員）、上條雅雄（ソニーB&Pカンパニーチーフマネジャー）、池田康（NTT西日本名古屋支店企画部長）、金川昇平（電通中部支社マーケティングプランニング室長）、コーディネーター：宇佐美博（東海テレビ放送元調査役）であった。（文責：加藤）



写真撮影：于洪流（メ講座M1）